

西公民館

松前校区愛護部主催キャンプ



▲マスの塩焼き、おいしそう。

きました。楽しかったよ。

(小一 松本 彩伽)

●キャンプにきた時はバーベキューをしたのが楽しかったです。

(小一 坂口 忠治)

●はじめにマスのつかみどりをしました。次に川で水あそびをしました。

(小一 東浦 友樹)

●また、みんなでキャンプに来て、ごはんをつくりたりして、みんなで遊びたいです。

(小三 渡邊 千尋)

●私は新しい友だちができました。五年生の佐川さんと水本さんです。

(小四 浅木 雅乃)

▼うまく焼けたかな？



●ごはんも、みんなと協力して、おいしいごはんが作れました。

(小五 水本 綾香)

●寝る時、楽しい話でとてもにぎやかでした。

(小六 末川 友理)

●また、いつか行けるといいな。」

(小六 末川 友理)

●野菜を切る係になりました。少し失敗したけどなんとかできました。ごはんは上手にできました。

(小六 星加 大輝)

●つかまえたマスをさばく時とてもさもち悪かったです。でもそのさばいたマスを塩焼きにして食べると、とてもおいしかったです。

(中一 京極 直丈)

●寝る時、みんなのいびきがうるさくてなかなか寝れませんでした。

(中一 山崎 弘樹)

補導センターだより

不審者問題から学んだこと

北伊予小学校生徒指導主事

酒井 憲一

大阪教育大学付属池田小学校での、児童殺傷事件の衝撃

がさめやらない時期に、本校区内で刃物を持った人を見かけたとの情報が寄せられました。何かあってからでは遅いという思いから、各分団の保護者の皆さんを中心に、子どもたちの登下校を見守るという活動が始まりました。忙しい時間帯にもかかわらず、集団登校する子どもたちに寄り添うようにしてきてくださる方や街角で子どもたちを迎えてくださる方など、本当に我が子を思う親の気持ちが伝わってきました。

しばらくして、この問題を知った地域の方が、「私にも、何かできることがあれば協力したい。」と申し出てくださいました。

そこで、学校から、関係諸機関(区長・補導委員・民生委員・警察協働員・防犯協会・老人会など)にお願いをしたところ、たくさんの方々子どもたちの登下校を見守って

くださるようになりました。

今回の問題は、校区全体を巻き込んで、大変な試練をもたらしましたが、逆に、学校・家庭・地域の連携という、今までずっと叫ばれ続けてきたことを、大きく一歩前進させてくれたような気がします。学校と地域の連携が深まったと同時に、子どもたちもまた地域の大人たちとしっかり結びつきました。この件が一段落した後も、子どもたちを保護者や地域の皆さんがあたたかい言葉で見送り、やさしい笑顔で迎えてくれます。私たちが忘れかけていた、昔、よく見られていたこのような光景が継続されることを期待しています。

今回の問題を通して、「子どもたちは、学校・家庭・地域の大人たちみんなを守り、育てる。」という、時代が変わっても、決して変えてはならない大切なことを学ぶことができた

と確信しています。

7月20日(金)から21日(土)、総勢62名で1泊2日のキャンプを面河しました。不便な大自然の中で食事を自分たちで作ったり、後片づけをしたり、また、楽しいゲームや遊びをしました。そんな中で集団の規律を守ることの大切さ、協調性や自主性の大切さを学びました。このキャンプ生活によって、人間としての重要な勉強ができました。子どもたちの声をいくつか紹介します。

●キャンプにきてバーベキューがたのしかったです。

(幼児 大星 貴紀)

●はじめて山のキャンプへ行

▼楽しいスイカ割り

